

友よ!



東京・石中会だより

第9号

10周年記念
WIDE
SPECIAL

発行 東京・石中会広報委員会 事務局 / 〒330-0856 さいたま市大宮区三橋 4-339-4
加藤友成方 TEL & FAX/048-877-9708 事務局メールアドレス t-sekichukai-tk@jcom.home.ne.jp
平成25年5月1日

特集1・「石巻いまとこれから」 絆の「花は咲く」も復興への道未だ遠し

被災から2年、復興へ向けて目指す方向 ～民間による街なか復興ビジョン、現在版～

(株)街づくりまんぼう 尾形和昭 (28回生)

<復興ビジョン作成までの経過と課題>

全国殆どの地方都市(まち)が抱える、人口減少・高齢化、郊外化による街の空洞化という深刻な問題に石巻も被災前から直面していました。それを危惧する行政・民間の一部が力不足ながらも試行錯誤の取り組みを進め、2010年3月中心市街地活性化法の認定を受けて立ち向かおうとしておりました。その矢先、2011年3月11日の被災により街は壊滅的な打撃を受けることとなりました。途方に暮れる多くの商店主や住民の中から、比較的若手の店主達が、水・食料・物資の確保と配布、そして情報収集・連絡の為に「生きる為の朝会」が始まりました。そして自衛隊やボランティアの懸命な姿に勇気づけられ、また全国からの支援を受けながら、自分たちの街を自分たちの手で復興させるべく取り組み歩み出しました。まずは被災した店舗を改修するにはどうしたら良いのか・・・そうした相談事や情報収集・会議をするコミュニティスペースを作ること(まんぼう仮事務所兼集会所、街カフェ)、被災した街でも来街者を誘引する仕掛けの「点」(AKT47、アイトピアホール等)を数箇所設置し、忘れさられない様に発信し続けること(石巻まちなか情報局 <http://www.ishinomakimatinaka.com/>)、当面の被災地ツアーの受け皿づくりで街にお金を落とさせること(復興グッズ、街なか復興マルシェ、石ノ森萬画館)等々、被災直後から今出来ることを確実に進めてきました。

しかし被災前に戻す復旧が仮に進んだとしても、空洞化・人口減・高齢化(石巻は予測データとして2040年までに35%減と10万人を下回る時代が到来する)と言う厳しい現実を認識し進めなければなりません。復興計画を立てる本質は、「物質的・量的な満足」から「心の豊かさ幸せ感を感じられる街づくり」を進めなければ意味が無い結果となると考えております。そこで住民+産学官+ボランティア+プロなどを巻き込んで、シュリンクする地域でも生き残り得る復興街づくり計画を描く必要があると感じています。

<まちなか復興ビジョン概略版>



目指すのは“石巻らしく持続可能なコンパクトな街”、その前提として津波浸水被災地であることを逆手に、世界中の何処よりも安全意識の高い街とするソフト面の充実、絶対ではないまでも安心して暮らせるハード整備とそのルールづくり、こうした自然災害への畏怖を忘れない街であり続けることが世界のモデルと成り得ると考えています。

空洞化し被災した街中に皮肉なことに、現実味がおびた「定住者人口の増加」と「交流人口の増加」の戦略、それを進めるハードとソフト両面の手法として①被災者の受け皿として災害公営住宅や分譲マンションを街中に誘致し居住者を増やすこと（民間主導型の再開発などの活用）、②石巻の良さを再構築・街並みの再生で交流人口を増やすこと（食・景観・歴史・文化など観光資源・病院など公的施設の集積）、③ライフスタイルのブランド化と言う従来価値観の転換、小さくとも光るビジネス・コミュニティビジネス・アートなど文化的なビジネス、ボランティアネットワークの蓄積（ローカルならではのものを活かした創造的仕事を新たな住民・支援者となるボランティアと共に進め、Iターンを促し起業化・定住化を図る）の三つである。

1. はじめに

「石巻」の街づくりは、被災地再生と復興の両輪を軸に、持続可能なコンパクトな街づくりを目指す。被災地再生は、被災者の生活再建と地域再生の両面から取り組む。復興は、被災地の未来を担う若者の定住と、交流人口の増加を目指す。この両輪を軸に、持続可能なコンパクトな街づくりを目指す。

2. 石巻の街なか資源

3. 街なか復興まちづくりの担い手

4. 街なかビジョンの方向性

石巻の街なか資源を地図上で可視化し、復興まちづくりの担い手を明らかにする。資源には、食・文化・歴史・景観・施設などが含まれる。担い手には、行政・民間企業・NPO・住民などが含まれる。

街なかビジョンの方向性を示す。目標として、安全な街づくり、交流人口の増加、持続可能な街づくりを掲げる。戦略として、ハード整備とソフト面の充実を推進する。

5. テーマごとのプロジェクト

6. プロジェクトの展開のイメージ

テーマごとのプロジェクトを整理する。01 一人ずつの安全な家づくりプロジェクト、02 街なかの商店街プロジェクト、03 石巻の食・食文化プロジェクト、04 アートプロジェクト、05 生活・医療・福祉プロジェクト、06 街なかの情報発信プロジェクト、07 フェリスプロジェクト。

プロジェクトの展開イメージを示す。各テーマのプロジェクトが街なかのどこで展開するかを地図上で示す。

7. 街なかでの過ごし方

8. 実現に向けた体制とスケジュール

街なかでの過ごし方を提案する。散歩、買い物、食事、文化体験などの活動を提案し、街なかの魅力を伝える。

実現に向けた体制とスケジュールを示す。組織体制、プロジェクトの進捗スケジュール、関係機関との連携体制を説明する。

誰がどう推進するのか？資金は？人材は？など課題は山積するが、国の復興予算、支援する産学の頭脳集団、高い意識のボランティアの若い力など、被災前にはあり得なかった条件が今なら揃っています。まさに今が最大のチャンス到来と捉え、商店主・住民・まんぼうなど自らが想いを形にする為に動き始めています。ご紹介する「街なか復興ビジョン」は、全体像が見えないとの市民・行政の声に応えるべく民間版の街なかエリアの近未来像を示すものであります。本ビジョンはより多くの方々のご意見を集約して具現化に進むものであり、随時改定を行って行く羅針盤とご認識頂きどんでんご意見を頂戴できれば幸いです。

<石ノ森萬画館リニューアルオープン>

震災後、全国の皆様より多くのご支援ご声援をいただきおかげさまで2012年11月17日に再開を果たすことができました。

その後一時休館し、リニューアル工事を行い3月23日に新しい展示を加えてさらにパワーアップ。



リニューアルオープンの日、たくさんの方が来場されました



石ノ森萬画館エントランス内



日和山から見た震災後の中瀬



サイボーグ009



震災直後の石ノ森萬画館周辺

**被災した商店が集まって
再出発!!**

名産 食事 生鮮

石ノ森萬画館の川向い ☎ 0225-92-6603

石巻まちなか復興マルシェ

特集2. 石巻復興サポーターズ

「石巻復興プロジェクト」の活動紹介

代表 花田 寛明、小塚 大洋

復旧ではなく、復興を。お金ではなく、仕事を。石巻をそんな将来・夢のある街、応援したくなる街にしたい。そんな思いを持った有志の集まりが石巻復興プロジェクトです。

石巻復興プロジェクトの8割のメンバーが石巻市外で日頃は生活をしながらも、「被災地以外に住みながら石巻のためにできること」を考え実践しています。代表の花田寛明（石巻市出身）も本業を別に抱えながら、石巻復興プロジェクトを切り盛りしていくために日々奔走しています。私たちの主な活動は①イベント企画・出店②石巻アンテナショップ「石巻マルシェ」運営です。東京・横浜を中心とした各種イベントへの「石巻焼きそば」の出店や石巻特産品の販売を通して、できるだけ多くの方に「石巻」というワードを良い経験と共に届け、石巻を知ってもらえるように努めております。また、大田区大森駅西口のウィロード山王商店街では、石巻のアンテナショップ「石巻マルシェ」が2011年の11月にオープンしました。毎週土曜日に開催されており、石巻から直送されるたくさんの商品が集められ、東京における石巻への復興支援に関するヒト・モノ・カネ・情報が繋がる拠点になっています。石巻出身者やその家族を中心としたメンバーが、ボランティアで和気あいあいと、石巻自慢の商品（味噌や鯨の缶詰、ほやなど）を事業者の想いを伝えながら販売しています。継続して1年以上も毎週土曜日には石巻マルシェが開いていることで、地域の方にも石巻の商品のリピーターになって頂き、商店街活性化の一助となっていることは、私たちの大きな財産であります。一方で、震災から2年が過ぎNews報道も減り、震災の風化という問題があります。石巻復興プロジェクトも震災前の写真展開催など、新たなことにチャレンジしていくので是非一度、石巻マルシェに足をお運び下さい！詳しくは



→ <http://reishinomaki.net/>

特集3. かんがる一の会は心の絆でバックアップ

第3回「かんがる一の会」チャリティイベントを終えて

坂口 いく子

東日本大震災より2年が経過し、2013年3月10日に 私達「かんがる一の会」では、沢山の方のお集まりをいただき、ふるさとに思いを馳せ チャリティイベントを行いました。（於：東京医科歯科大学 MD棟26階ラウンジ）

今年は、第1部 元門脇小学校の校長 鈴木洋子先生の「東日本大震災 ーその時 学校はー」で教育者としての立場から経験された大地震・大津波の災害から、小学生達を安全な場所へ避難誘導し、子供たちの保護者へ無事お返しできた時の様子、安堵の気持ちや、平日頃の防災教育の重要性についてご講演いただきました。近隣の被災者の避難所としての機能も果たされるなど大変なご経験に、ただただ頭の下がる思いです。

続いて、第2部 チェロカルテット「16本の弦の舞踏会」では、4人のチェリストによる楽しい音楽や、お話から徐々に和やかな雰囲気になり、本格的なチェロ演奏を聴くことが出来ました。被災された方々は勿論、会場においていただいた皆様の気持ちを和らげる音楽の力に感動・感動・感動！です。丸山泰雄さま、朝吹元さま、灘尾彩さま、高橋泉さま 本当にありがとうございました。

3回忌を迎え、なかなか復興も遠く長い道ですが、自分の出来ることをこつこつと継続し、同期の葉良枝さん、渡辺啓子さんとも協力し、長期の支援を続けていきます。今後ともよろしく願いいたします。

坂口いく子

「かんがる一の会」の活動内容詳細については以下のホームページをご参照ください。

<第3回かんがる一の会（2013.3.10.>
<http://www6.ocn.ne.jp/~kangaroo/R3.html>

<「かんがる一の会」のホームページのご紹介>
<http://www6.ocn.ne.jp/~kangaroo/Welcome.html>

P・S 「かんがるーの会」は

2011年3月11日の東日本大震災で親を亡くした、ふるさと東北の子供たちを支援することを目的として、石巻圏（石巻市・女川町・東松島市）登米市出身者で立ち上げた会です。カンガルーが袋で子供を守るように、みんなで子供たちをそっと支えるお手伝いができればと考えています。未来ある子供たちのために、今後も支援を続けてまいります。

kangaroo.no.kai@gmail.com

Tel 049-243-9616（坂口 いく子）

是非 来年 御参加下さいますように・・・一同お待ちしております。

特集4. カムバック活気

社団法人石巻元気復興センター 代表理事 松本俊彦

2011年3月11日、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市。

水産業が活発だった同市は、震災から2年が経過し、市内がある程度の復旧する一方で、津波による被害を大きく受けた海沿いのエリアは今もって復旧の目処が立たない状況が続いている。

震災直後の4月、その被害の大きさから、事業の継続を判断できずにいた多くの若手経営者・後継者が集まり、復興へ向けての情報交換、地元国会議員との意見交換・要望書の提出が当団体活動の始まりだった。当初は苦しんでいるのは自分だけじゃない。それを感じるだけでも心が救われた。毎月集まりながら情報交換をし、また時には専門家を招いての勉強会、そして国の助成金申請への準備作業や各種補助策の勉強など必要な情報収集を積極的にした。そんな中、復興業種とそうでない業種、被害規模の大小、インフラ整備の違い等で、復興に少しずつ差がでてきました。

そこで、一番復興が遅れていて、石巻の基幹産業である加工業の復興に力をそそぐべく、2011年12月に社団法人石巻元気復興センターを設立し、各社の商品の詰合わせセットを主に販売を開始し、現在は各種展示会・商談会への協働での積極参加や販路拡大の支援事業を各社協力しあいながら進めているところです。具体的な事業としては、日本各地の復興イベント等での支援販売の窓口業務や百貨店、イベントへの出張販売業務、各種商談会への参加、石巻まちなか復興マルシェ（復興商店街）への出店、新商品の共同開発などをおこなっています。

その被害の大きさから、まだまだ先は見えませんが、前を向いて協力しあいながら、一步一步進んで参りますので、今後とも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。



石巻元気復興センターのメンバー



各社の詰め合わせ商品

石巻被災企業復興詰合わせセット好評販売中！
<http://www.ishinomakinet.com/genki>
社団法人 **石巻元気復興センター**
〒986-0854 石巻市大船通北3丁目3-54（株）成弘堂内
TEL 0225-96-5557 FAX 0225-93-5006
E-mail genki@ishinomakinet.com

石巻NEWSée
■開館時間
午前10時～午後6時
■月曜日定休

石巻日日新聞創刊100周年事業
2F Resilience Bar
■営業時間：午後7時～午後11時
■日・夜・月曜日定休

石巻市中央二丁目8-2 コシノBOX7A内
TEL (0225)98-7323 FAX (0225)98-7324
e-mail: newsee@hibishinbun.com

絆の駅
石巻NEWSée
Ishinomaki début 2012

特集5. 来校の著名人たち

2011年3月11日以降たくさんの著名人に我が母校石巻中学校を訪れていただきました。ここでは特に新聞に取り上げられた記事をご紹介します。

人気音楽グループのドリカム・カム・トゥルー（ドリカム）が石巻中学校の校庭で復興ライブを開いた。立ち上がる勇気を与えるヒット曲「何度でも」などを熱唱し、集まった1万1200人を歌で励ました。

ドリカムが復興ライブ

石巻中に1万1200人

人気音楽グループの「手紙」に続いてか所催し、いしのまきNPドリカム・カム・トゥルーは20日、石巻中学校の校庭で復興ライブを開いた。立ち上がる勇気を与えるヒット曲「何度でも」などを熱唱し、集まった1万1200人（主催者発表）を歌で励ました。

ドリカムは被災4県で無料の復興ライブを開いており、石巻市は前日の海防島市（台

まんぼう亭が共催し、ポーカーの吉田美和さんは「私たちが歌うことができれば、少

ヒット曲などを次々と披露したドリカム

しても楽しい時間を通になり、曲に合わせて「してもらえればうれしうやパレード曲でいい。皆に愛を送りたい。は目録を熱々させる人」と呼び掛けた。こもいた。

の先「未来予想図 同中水明町から家族II」などを披露し、最3人で訪れた女性は後の6曲目は「何度で」被災した中での「よも」で締めくくった。うなイェトはうれしステージと観客が一体いと言を弾ませた。



元総合格闘家の須藤元気さん（33）が石巻市を訪問し、泥やガレキ撤去などの支援活動を行った。



作業メンバーに指示を出す須藤氏（中央）

いまこそ一つに

須藤元気さんら 商店街の復興協力

元総合格闘家の須藤元気さん（33）が17日、石巻市を訪問し、泥やガレキ撤去などの支援活動を行った。

須藤さんは、東京都江東区出身の元総合格闘家。現在は拓殖大学レスリング部で監督を務めながら、俳優としても活躍している。

震災後のアレンやラジオなどで石巻地方の深刻な被害状況を知り、少しでも役に立ちたいと京都の1企業街ユニークの協力のもと、「TEAM WE ARE ALONE」という支援グループを結成。ホームペーシ上の呼びかけで集まったボランティア27人と一緒に7日まで復興作業にあたった。

作業は主にライブアリア商店街などの中心商店街で行われ、店内に流れ込んだ泥土やガレキの撤去、清掃活動を行った。7日には石巻中学校を訪問したほか、午後6時から石巻専修大学特設センターで、格闘技セミナーを開いた。

一行は、8日に一端東京に戻り、今後の対策会議や新たなボランティアを募り、5月に再び被災地を訪れるという。

千葉県船橋市などのプロ・アマ演奏者たちで構成する「船橋・石巻応援オーケストラ」の演奏会が石巻中学校で開かれた。



千葉県船橋市などのプロ・アマ演奏者たちで構成する「船橋・石巻応援オーケストラ」の演奏会が石巻中学校で開かれた。

フルオーケストラによる迫力の演奏で聴衆を魅了

田恵悟委員長が実現参加したのは船橋市中心に関東地方で音に取組む人たちが、指揮者である奥田委員らの呼び掛けて集まったメンバーが今年6月から練習を重ねてきた。

会場ではスツペの「蜂騎兵序曲」やブームスの「ハンガリー舞曲」などのなじみ深いクラシック音楽の曲が披露された。観客らは曲に合わせて体を揺らしたり、手拍子などして演奏を楽しんでいた。

山本将也副実行委員長（36）＝東京都＝はこの日を迎えるまで大変だったが、被災地に音楽を届けられて良かった。音楽が復興の力となることを願っていた」と話していた。

関東近県のプロ・アマ音楽家ら フルオーケストラで心の支援 石巻中で演奏会



千葉県船橋市などのプロ・アマ演奏者たちで構成する「船橋・石巻応援オーケストラ」の演奏会が先日、石巻市立石巻中学校で開かれた。合奏楽器や弦楽器、打楽器など64人編成のフルオーケストラが息の合った演奏を繰り広げ、観客を魅了した。

演奏会は被災地の人たちに音楽を楽しんでもらおうと実行委員会



記事は全て石巻日日新聞掲載から

お祝いのごあいさつが届きました



「東京石中会」と「石中教育講演会」

石巻中学校 校長 横澤昌憲

「東京石中会」設立10周年、心よりお喜び申し上げます。

私が「東京石中会」の方と初めてお会いしたのは、教頭として本校に勤務していた平成17年2月、当時の広報委員会の井上勝夫委員長さん、首藤光春さん、鈴木健司さんが来校した時でした。三氏は、「東京石中会」の人材を在校生の大志を刺激することにぜひ活用してほしい旨を熱く語られていたことを記憶しています。当時校長であった綿引雄一校長（13回生）がそのご厚意をありがたく受け入れ、5月に実施する修学旅行の中で、先輩の話を聞く「課外授業」という形で実現することができました。講師は写真家の橋本照嵩さん、会場は生徒の宿泊しているホテルでした。また、翌年の1月には、本校で青沼義信さんより全校生徒に講話をいただきました。これが現在の「石中教育講演会」の原型となっています。直近では、宗教画家の渡辺総一さんより、「美と真実を求めて～キリスト教美術への旅～」と題してお話をいただきました。美術と宗教との出会い、そして、それらの融合。渡辺さんのお人柄もよく分かり、生徒も非常に興味をもって聴講していました。

これまで、9名の先輩方から様々な分野の興味深いお話をいただきました。生徒個々が自らの職業観や勤労意識、生き方について考えるためのよいきっかけづくりになっていると確信しております。「東京石中会」あつての「石中教育講演会」であり、今後も本校の恒例行事である「石中教育講演会」への先輩諸氏のご派遣を強く願うところであります。

石巻の地より、「東京石中会」の更なるご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、結びといたします。



群鴫会
会長 浅野 亨

東京石中会10周年おめでとうございます。

そして、この会を支えて下さっている皆様、大変ご苦勞様です。2011.3.11の巨大津波で「記憶の中にある石巻」は一変しました。4千人を超す人々の生命も一瞬の内に奪われました。

しかし、生かされた私達は「必ず石巻を再生させる」との決意と覚悟で、色々の問題解決の為、行動を起こしております。

復興への道程にある2つの大きなポイントは、産業の再生と住宅の確保です。2つの風がふいています。放射能の風評被害と3.11そのものの記憶の風化です。

故郷を離れてしっかりとした実績を残された東京石中会の皆様も、それぞれの絆の中で、3.11以後対応されたものと思います。共に気合を入れて誇りを持って進みましょう。

これからも、一日も早いより素晴らしい石巻創成に努力していきますので、ご指導と力強い応援を宜しくお願い申し上げます。そして、東京石中会の皆様のご活躍と会の発展を心から期待しております。

電車・地下鉄でお越しのお客様

- JR東京駅より秋葉原駅乗換で総武線両国駅東口より徒歩約6分
- 都営地下鉄大江戸線 両国駅 A1出口直結

祝 10 周年！ 「東京・石中会」ますますのご発展をお祈りします。

<p>10周年誠におめでとうございます</p> <p>東京しらうめ51</p> <p>代表 及川 京子</p>	<p>祝・東京石中会十周年</p> <p>石巻市立女子高等学校同窓会 関東支部</p> <p>支部長 藤山 みき子</p>	<p>東京石中会十周年 おめでとうございます</p> <p>東京住中会</p> <p>会長 高山 ふさえ</p>	<p>「そだての住人倶楽部」会員大募集</p> <p>(株) オーガッツ</p> <p>詳細は同封のリーフレットを ご覧ください</p>
<p>故郷の一日も早い復興を願って</p> <p>祝十周年</p> <p>阿部 剛 (3回生)</p>	<p>3回生</p> <p>青沼 義信</p> <p>川崎市麻生区万福寺 4・19・1・1021</p>	<p>3回生</p> <p>武山 勝</p> <p>世田谷区成城 8・20・1・201</p>	<p>復興への志、いつまでも！</p> <p>阿部 剛夫 (4回生)</p> <p>蓮田市蓮田 2・224・22</p>
<p>皆様の力になります</p> <p>徳江明行政書士事務所 (5回生)</p> <p>東京都西東京市中町1・7・14 TEL&FAX 042(421)9079 E-Mail : tohaki-ra201@yahoo.co.jp</p>	<p>祝東京石中会十周年</p> <p>石巻の早急なる復興を祈ります</p> <p>上原 藤三 (5回生)</p>	<p>祝・東京石中会十周年</p> <p>首藤 光春</p> <p>8回生</p>	<p>東京石中会十周年 おめでとうございます</p> <p>鈴木 健司</p> <p>8回生</p>
<p>祝・十周年おめでとうございます</p> <p>弁護士 相澤貞止 (18回生)</p> <p>岡部・山口法律事務所 東京都中央区新川1・5・17 TEL 03(5555)7931</p>	<p>ジャズトランペッター 作・編曲家</p> <p>伊勢 秀一郎 (24回生)</p> <p>TEL 090(8777)2595 E-Mail : tpi-se@rd.biglobe.ne.jp</p>	<p>井上 俊次 (33回生)</p> <p>E-Mail : info@378tostr@knc.biglobe.ne.jp</p> <p>読売日本交響楽団 首席ファゴット奏者 アマミューズ木管五重奏団主宰 東京音楽大学非常勤講師</p> <p>少人数アンサンブルの 出前演奏承っております</p>	<p>株式会社サテイスフアクション</p> <p>成家新一 (40回生)</p> <p>横浜市港南区日野8・31・13・201 TEL 045(512)8982 E-Mail : sss22542254@yhb.ne.jp</p>

「東京・石中会の集い」石巻の思い出は一つ



首藤会長（8回生）の挨拶

第9回東京石中会の集いレポート

～平成24年6月17日（日）in 八重洲富士屋ホテル 赤松の間～
 レポート 浅野 剛（36回生）

9回目を迎える今回の集いは、震災の影響で前年は実施できなかった為2年ぶりの開催となりましたが、来賓の方も併せて約60名の方に参加していただきました。

第二部の懇親会では、「がんばります石巻」と題して石巻から株式会社街づくりまんぼう副社長の尾形和昭さん（28回生）より石巻の現状と今後の復興についてご講演いただきました。また宗教画家の渡辺総一さん（18回生）やトランペット奏者の伊勢秀一郎さん（24回生）をはじめ23名の初参加の方にスピーチをいただき会場は大変盛り上がりました。会場外では3・11震災時の石巻地域を撮影したDVDや石巻限定のTシャツ等のバザーも行われ多くの方にご購入いただきました。年々参加人数も増えてきて、何十年ぶりかで会う同級生の方や親戚の方もいらっしゃいます。事務局として趣向をこらした懇親会にさせていただきますので皆様何卒次回の参加もよろしくお願い申し上げます。



尾形和昭様にご講演いただきました



昔話に花が咲きます



全員で校歌斉唱

東日本大震災を「風化させない」
「希望の環」 プロジェクト

希望の環プロジェクトは、
 ・石巻の基幹産業である水産(加工)の復興
 ・東日本大震災を風化させない
 ・長期化する復興を継続して支援
 を目標に活動をしています。

希望の環活動の詳細についてはホームページをご覧ください
希望の環ホームページ <http://kibounowa.jp>

気軽にご相談ください。

弁護士 **鈴木 雅芳**
 (26回生)

多田総合法律事務所

〒105-0001
 東京都港区虎ノ門2-8-1 虎ノ門電気ビル3階
 TEL: (03) 3597-8855 FAX: (03) 3597-8856
 E-mail: suzuki@ts-law.jp

回顧 10年ひと昔

再生復興祈願 石巻

会長 飯田勝紀（9回生）

忌まわしき「3.11 東日本大震災」から3年目を迎えるのに、復興の報道は相変わらず暗い。震災が起きてから、少年時代の石巻の原風景を思い出すことが多くなった。赤ふん姿で泳いだカミサンコ。日和山から見下ろす2本の灯台。広小路の両脇に並ぶ盆や正月飾りの露天商。川開きの花火と賑わい。・・・「少しずつでもいいから、昔の姿を取り戻せないか！」と願うのだが、お化けのように消えた風景は2年経っても戻ってこない。

故郷を離れて暮らす者の郷愁は、地元で日々暮らす人々の苦悶とは比べものにならないが、無常としか言いようがない。東京石中会の方々も、肉親や親戚縁者の災難を抱えてそれぞれがやれることはやってきたと思うが、日が経つにつれ個人の力量には限界を感じざるを得ない。東京石中会は、震災直後の募金活動以後は役員が手分けして復興イベントに出掛けて支援してきたが、これからも地元と連携して息の長い支援活動を模索して続けて行きたい。

会員の皆さんにもご協力いただきたいことがあります。同封したパンフレットの法人企業や会報紙面に掲載されている再開した商店は石巻の再生復興に向けて頑張っています。折に触れ特産物をお買い求めになるなどは支援の一つです。お中元やお歳暮などに利用されるのはいかがでしょうか。ご支援のほどよろしくお願いします。

申し遅れましたが、私は昨年の総会で3代目の会長となった飯田勝紀です。不慣れな会長ですが、どうぞよろしく願います。

この10年を振り返って

初代副会長 阿部 剛（3回生）

平成14年10月5日、東京は有楽町の“ニュートーキョー”の会場で東京石中会の設立が全員一致で承認された。

この一瞬、ついに此処までどり着いたという喜びと同時にこれからの会をどう盛り上げていけばよいのか、という不安と責任を感じた事を、昨日の事のように覚えている。

昭和22年4月に新制石巻中学校として開校、すでに半世紀以上が経っているのに、東京には同窓会がない、ぜひ作りたいとの思いから有志が話し合い、平成14年春に設立準備委員会を立ち上げた。まず設立総会を10月に開く事を前提に、それに向かって役割分担を決め準備に入った。

一番の難題は会員への伝達方法、名簿を集めるにはどうすればよいか！問題は山積みだった。そこで、地元の同窓会（群鳴会）にご指導、ご協力を依頼すべく協力要請をした。ところが本部の事情で協力が得られず、やむを得ず東京組だけで会員を探し出し、約500名に案内状を出すまでにこぎつける事が出来た。しかし、残念ながら39名の出席者と少なかったが、会は和気藹々、楽しい会となり東京石中会発足の成功を確信できた。

そして10周年、会長も3代目となり着実にこれからの更なる発展を期待出来る処まで歩んできたと思う。

東日本大震災で故郷石巻は大被害を受けたが、いち早く東京石中会として 皆さまのご協力のもと、義援金を石巻市長に届け感謝の言葉を頂いた。引き続き東京石中会としては群鳴会と連繋して地元には何か役立てる方法がないか、会員の皆さんと一緒に考え実行していきましょう。これが我々、東京石中会の理念だから！



創刊号



第2号



第3号



第4号

「東京石中会、草創期の思い出」

初代事務局長 阿部 剛夫（4回生）

もう早いもので今年は第10回総会に当たります。

思えば、平成14年春、橋本 照嵩氏から東京近郊に在住している石巻中学校卒業生の間で、同窓会を立ち上げたい。ついでには協力願いたいとのことでした。

打ち合わせ会場に行くと、5回生の井上 勝夫、上原 藤三、8回生の橋本 照嵩、首藤 光春、鈴木 健司の諸氏が集まっていました。

会のそもそもの趣旨は、「会員の親睦」と「母校への恩返し」をしたいとのこと。まずは手分けをして各回生の名簿作りをし、活動資金は会員からの会費で賄う方向になりました。

新制中学の実質的な一期生は3回生なので、阿部 剛、青沼 義信の両氏に会長の選出をお願いしました。

準備会を何度かしているうちに、お互い言いつばなし、聞きつばなしで何を議論し、何を決めたのか不明な点が出てきました。そこで、議事録を作ることになりました。提案者の私が事務局を引き受けることになりました。

平成14年10月設立総会を開催、総会の承認を得て会長秋月 英美氏、副会長阿部 剛氏の下、東京石中会は船出をしました。

平成15年の第1回総会以降、平成23年の大震災の年を除いて総会は毎年開催してきました。今年は節目の第10回総会を開催する運びになりました。

この間、会報を出して活動内容を会員にお知らせすることになり、井上 勝夫、首藤 光春、鈴木 健司の3氏は会報の執筆、編集に精力的に活動しました。

また、平成17年2月には前記3氏が母校石巻中学校を訪問、綿引校長、横澤教頭にお会いし「東京石中会が母校に何が出来るのか」について意見交換を行い、先輩が在校生に「課外授業」を行うことに決まりました。

その第1回目は、平成17年5月橋本 照嵩氏が修学旅行で東京に来ていた後輩達に浅草ビューホテルで講演を行いました。その後も毎年課外授業活動を継続して行っています。

この10年間で活動の内容も定着しつつある最中、平成23年3月大震災発生、未曾有の被災した市民の皆さんは疲弊しきっています。今後も石巻の復興を長いスパンで見守りたいと思います。

花は、人の心を和ませ天からの贈り物です。

「鈴蘭」

耳を澄ませば 鈴蘭の
小さい花が 春風に
揺れてかすかに 鈴の音が
ほら 聞こえるでしょう 鈴の音が

瞳の先に 鈴蘭の
小さい花に 朝露が
朝日を浴びて 輝いて
ほら 揺れているでしょ 朝露が

顔を寄せれば 鈴蘭の
小さく白い 花の列
こよなく可憐な 鈴蘭が
ほら 夢のようでしょ 鈴蘭が

～鈴木健司さん（8回生）より～



第5号



第6号



第7号



第8号

ア・ラ・カ・ル・ト

～サプライズ イン ishinomaki～

「3・11を忘れない 新宿防災フェア」

NPO 法人ワーカーズコープ
新宿区立西新宿児童館 館長
村上 俊 (32回生)

東日本大震災を風化させず、災害に対する備えを学ぶ事を目的に開かれたイベントに参加して、石巻の物産販売を行ないました。新宿中央公園で開かれた「3・11を忘れない 新宿防災フェア」。地元町内会とライオンズクラブの方々を中心となり、震災の翌年から始まり今回は2回目。会場には消防の放水や救急救命など防災体験コーナーのほかに、物販のテントが30張!!。気仙沼・女川・東松島・亘理などなつかしい地名が並びました。町会やライオンズクラブが震災後に支援で繋がった自治体からの出店だそうです。「館長、テントやるからやれ!」と命令口調で誘われた石巻の物販ですが、口調とは裏腹に地域の皆さんの優しさを感じます。販売した商品は海苔・かつお節・味噌などですが、昨年より品の種類が増えています。徐々に生産が軌道に乗っていることを実感しました。天気にも恵まれ来場者は、なんと4000人。「風化」という言葉に敏感になっていましたが、この日同様まだまだ応援してくれる人は多いはずです。あの日からまだ2年、首都圏だからできること、出身者だからできることを探して、協力して場を作っていかないと。



「金の延べ棒」贈り主は誰?!

2月上旬、被災者支援NPO「石巻復興支援ネットワーク」から金の延べ棒1000万円相当が二度にわたって郵送されてきた。送り先は、まんがランド運営の第3セクター「街づくりまんぼう」と「石巻魚市場」。関係者、市民ともに「ぎょ、魚(ギョ)と驚きと共に感謝しつつ「奇特な方は誰っしょ?ありがとうございます」と思いがけない朗報に沸いている。

●写真は匿名で届けられた金の延べ棒を手にする西條まんがランド館長(右) 読売新聞2月10日掲載)

「雄勝希望キャンパス」に咲いた桜花

白壁ビッグキャンパス(高さ4m幅40m)に雄勝住民がこぞって参加し創作した満開桜の作品が話題をよんでいる。掌をピンクや白に染めて描いたみごとに桜に、明日への希望を抱き心の糧としている。

●写真は読売新聞4月1日掲載)

吉永小百合さんがサンタで訪石

昨年暮れ話題の映画「北のカナリアたち」の主人公役で出演したトップ女優の吉永小百合さんが石巻を訪問し話題をさらった。これは津波で流された岡田劇場関係者らの招きで実現したもの。特別上映会はワーナー・マイカルシネマズ新石巻で催された。石巻少女合唱団と劇中で歌われた童謡を合唱し、心の絆を結び互いに感慨深い面持ちだった。

●写真はサンケイスポーツ12月3日掲載から)

全ろう佐村河内さん 感動の鎮魂曲

聴力を全て失った作曲家が、女川で母親を津波で亡くした8歳の少女に心打たれ、身を賭しての鎮魂曲を完成させ注目を浴びている。佐村河内さんは被災地に役立ちたい思いの一念から何度も訪石し、肌で風土を感じながらの体験中に少女に出会ったもの。石巻では「サルコヤ」の泥かぶりピアノ修理で話題となった井上社長との縁などで、魂のミュージシャンCD発売にこぎつけた。このクラシックCD販売実績は仙台でベストセラーとなり全国的に脚光を浴びている。

●写真はサルコヤで面会中の佐村河内さんと井上社長(右)

カールイスら金メダリストが訪石指導

五輪ゴールドメダリスト3人が石巻を訪れ被災地3県の中高校生70余名に実地指導をした。Mr短距離のイス、三段跳び王者のw・バンクス、走り幅跳び記録ホルダーのM・パウエルが豪華トリオのコーチに参加者は緊張しっぱなし。3人は「被災に負けない強い精神力で逆境を乗り越えて欲しい」とエールを送った。

●写真はサンケイスポーツ3月25日掲載から)

浦学球児 日本一Vの陰に石巻あり

春の選抜高校野球大会で見事な初優勝を遂げた埼玉・浦和学院高校。このVに一大貢献を果たした秘話が今、注目を集めている。被災直後に石巻を訪れ中学や保育園でボランティア活動で互励運びなどの手伝いでこどもたちと絆を深めた野球部員たち。甲子園優勝を祈って石巻のこどもたちはアルプススタンドに「浦和学院のお兄ちゃん、がんばれ!」の横断幕を掲げ後押し。浦学ナインも横断幕応援に励まれ、念願の初優勝の栄冠に輝いた。互いに感謝、感謝の明るい話題でした。

●写真はサンケイスポーツ3月23日掲載から)

石巻の復旧・復興のため頑張っています。

電話 0225(22)2971 栗野蒲鉾店 水産庁長官賞に輝く名品	電話 0225(22)1030 井上海産物店 海産物のお土産なら	電話 0225(22)1842 そば処もりや 老舗の美味しいおそば	電話 0225(93)7718 いしのまきらいふ コミュニティタウン誌	電話 0225(22)0727 株式会社 京屋 きものと帯	電話 0225(22)1258 寶来寿司 味が宝、のれんも宝の老舗	電話 0225(96)3658 サルコヤ 玩具や楽器のことなら
--	---	--	--	--	--	--

年会費の納入、ありがとうございました。

●平成 24 年度・東京石中会・年会費払込者名簿

[3 回生] 阿部 剛・大木 郁子・秋保 光子・武山 勝・青沼 義信・森山 滋之・後藤 久男・水澤 昇・結城 常明・坂本 武久・嶋田 寿子・加藤 英子 [4 回生] 森田 亨子・大西 葉子・阿部 剛夫・大熊 正子・井上 英治・三浦 貞夫・金野 和夫 [5 回生] 佐藤 仁子・松本 悦子・津端 みち子・島子 妙子・菊田 淑子・上原 藤三・渡邊 寛治・阿部 寿郎・平山 貞夫・阿部 道子・石井 弘志・遠藤 明夫・小松 悦子・越後 京子・徳江 明・鈴木 恵美子・早川 幸子 [6 回生] 久道 勝信・藤澤 俊・相澤 昌男・中村 繁子・細川 金子・長崎 紀久子・鈴木 季子 [7 回生] 伊藤 恵子・橋本 洋二・金澤 功・田上 富美子 [8 回生] 首藤 光春・鈴木 健司・山手 てい子・御牧 道子・樽見 和子・古胡 満子・荒木 軍治・畠山 尚・川島あつ子・菅野 邦子・佐藤 恭子・松田 勝治・高嶋 展廣・今野 ひさ子・渥美 淳・金森 喜美子・市川 洋子・高橋 静子・小泉 サト子・塩谷 洋子・水澤 春彦 [9 回生] 野崎 ナホ子・高橋 洋治・森 孝二・後藤 安男・山川 孝子・伊藤 幸子・早田 光・加藤 恵美子・菊池 正・青山 さわ・加藤 照子・滝川 喜久子・田中 龍子・伊藤 幸子・梶田 洋子 [10 回生] 亀山 雄臣・角田 守弘・緒方 正子・今井 和代・三浦 照雄・大高 朋子・田代 勝彦・本田 生子・館 克憲・奥村 カツ子・勝又 勝・川野 澄子・菅ノ又 桂子・斎藤 宣子 [11 回生] 菊池 保夫・高井 篤三・池永 貴美子・渡邊 みよ・間部 和子・高橋 和子・栗石 登志子・三宅 靖代・阿部 恒久・後藤 永子・鳴海 佳子・中島 富子・栗原 光男 [12 回生] 西條 修・森田 光子・金澤 由紀子・金澤 洋・山下 秀子・蟹澤 詔子・中塚 克子・佐藤 正克・今井 あい子・村上 秀一・小林 美智子・関根 斉・安田 淳子・楠 経子・吉田 義男・岡崎 国男・岡崎 好子・奈良坂 仁・奥田 捷治・南里 憲三・夏目 都喜子・初井あき子 [13 回生] 須田 正毅・小堀 敦子・佐々木 次臣・竹内 政子・岡田 ちづ子・勝島 節子・保坂 智子・赤塚 誠哉 [14 回生] 川原 泰子・山中 圭子・高橋 真理・細川 忠勝・清宮 三代子・武山 和子・梅沢 智 [15 回生] 池田 精寿・星 憲夫・末廣 千代・山形 昌子・今野 和子・畠山 清光・太田 とし子・星澤 晋 [16 回生] 渡辺 啓子・星澤 正孝・葉 良枝・坂口 いく子・伊澤 洋子・青山 憲介・金澤 哲・藪田 美智子・吉田 義弘・佐々木 光子・熊谷 徹・佐藤 政彦・森田 芳朗・新井田 道子・須田 厚 [17 回生] 佐藤 真木夫・佐藤 秋男・熊谷 道夫 [18 回生] 小野 恵久子・田村 隆・本橋 富久子・鈴木 清勝・小笠原 けい子・加藤 京子・西田 美知子・岩崎 久仁夫・山崎 容子・石森 邦昭・浅野 和雄・山口 広治・加藤友成・吉田 りり子・中崎 園枝 [20 回生] 山川 恵利子・茂泉 克則・佐々木 千代子 [22 回生] 穴原 直子・千葉 長俊 [23 回生] 岡田 文彦 [24 回生] 伊勢 秀一郎 [25 回生] 師岡 千英子・溝辺 佳代子・相沢 茂・住 いつ子・星野 祐一 [26 回生] 高橋 裕子・渡辺 淳・大久保 多賀子・高橋 周泰 [28 回生] 菅原 寿幸 [29 回生] 阿部 泰 [32 回生] 村上 俊・鈴木 わか子 [33 回生] 菅原 洋樹・高橋英二 [34 回生] 星野 知倫 [36 回生] 浅野 剛 [40 回生] 成家 新一 [43 回生] 高橋 真一郎 (以上順不同・敬称略 平成25年3月31日現在)

●寄付者

[3 回生] 阿部 剛・武山 勝・青沼 義信 [4 回生] 阿部 剛夫 [5 回生] 津端 みち子・遠藤正子・上原 藤三・鈴木 恵美子・早川 幸子 [6 回生] 鈴木 季子・藤澤 俊・細川 金子 [8 回生] 首藤 光春・鈴木 健司・水澤 春彦・樽見 和子・今野 ひさ子・山手 てい子 [9 回生] 菊池 正・伊藤 幸子 [12 回生] 森田 光子 [18 回生] 山口 広治 [22 回生] 千葉 長俊
東京住吉会・東京しらうめ会 51

お振り込みに際してお願い

窓口を通してお振り込みされますと、手数料が 120 円徴収されます。振り込み用の機械 (CD) で振り込まれますと、手数料は 80 円となります。できるだけ、振り込み用の機械 (CD) でお振り込みされますよう、お願いいたします。
(平成 24 年度会計報告は今年 6 月総会にて行います。)

東京・石中会への寄付

東京・石中会も今年で 10 周年となりました。会の運営は、基本的には同窓生皆様からの貴重な年会費を財源としておりますが、事務費用その他の活動で、財政的にはまだまだ脆弱な面を有しています。
東京・石中会では、引き続き皆様からの貴重なご寄付を受け賜っております。ご芳志は、下記事務局長宛にお送りくださいますようお願いいたします。
加藤 友成

〒330-0856 さいたま市大宮区三橋 4-339-4

事務局だより

日頃は東京石中会の活動にご協力・ご支援を賜り誠に有難うございます。東日本大震災から早や二年が過ぎました。復興に向けた遠い道のりを感じながらも一歩一歩前進しているふるさと石巻の姿を見るにつけ我々に今できることは何かを問い続けるこの頃でございます。東京石中会は平成 25 年度に「第十回東京石中会の集い」を迎えることとなります。この記念すべき節目に新たな取り組みをすることいたしました。ひとつは広報誌「友よ!」の特別拡大版を発行することです。ふるさと石巻との交流を活発にしたいということで様々な情報をご提供させていただきました。今回の発行にあたりましては関係の団体・個人の方に多大なるご支援をいただきました。改めて心より御礼を申し上げます。二つ目はホームページの全面リニューアルでございます。「石巻圏 O B O G の広場」「石巻圏首都圏情報」等の新たなコーナーを設けました。これを機にたくさん情報を発信していきたいと考えております。また加えて石巻圏や首都圏で復興に向けた活動をしている団体との連携も進めております。役員一同これからもより一層「石巻」と「会員の皆様」との交流を深めていくように尽力していきたいと考えております。

会員の皆様にご協力ご支援のお願いでございます。まず第 1 点目は平成 25 年度分の年会費の納入でございます。本会はご存知の通り会員の皆様の浄財で運営されております。何卒ご理解の上ご支援のほどお願い申し上げます。第 2 点目は「役員募集」でございます。現在役員は少人数での運営をしております。いつでも募集しておりますので是非とも応募いただきますようお願い申し上げます。今後ともご協力ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

編集・広報 委員長 浅野 剛
委員 首藤 光春
事務局長 加藤 友成

石巻の復旧・復興のため、頑張っています。

鉄スクラップ古紙リサイクル 株式会社 齋武商店 電話 0225(93)5111	大正二年創業 鰻 割烹 八幡屋 電話 0225(22)0138	広告代理 製作 I T 関連 東北プランニング株式会社 電話 0225(95)0352
---	---------------------------------------	---

東京石中会 2013 年度 役員	会長 飯田 勝紀 (9 回生)	副会長 菊池 正 (9 回生)	事務局長 山口 広治 (18 回生)	事務局長 加藤 友成 (18 回生)	事務局 清水 昭浩 (32 回生)	事務局 村上 俊 (36 回生)	事務局 浅野 剛 (32 回生)	事務局 星野 祐一 (25 回生)	会計 鈴木 健司 (8 回生)	会計 星野 祐一 (25 回生)	会計監査 市川 洋子 (8 回生)	特任顧問 首藤 光春 (8 回生)	顧問 阿部 剛 (3 回生)	顧問 青沼 義信 (3 回生)	顧問 武山 勝 (3 回生)	顧問 阿部 剛夫 (4 回生)	顧問 早川 幸子 (5 回生)	顧問 上原 藤三 (5 回生)	顧問 鈴木 恵美子 (5 回生)	顧問 徳江 明 (5 回生)
------------------	-----------------	-----------------	--------------------	--------------------	-------------------	------------------	------------------	-------------------	-----------------	------------------	-------------------	-------------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	----------------

第8回教育講演会開催される！

「迷いの中にも素晴らしい出会いが！」

「美と真実を求めて」 宗教画家 渡辺総一さん（18回生）

（同行者：加藤友成作成）

今回の講演会は12月7日（金）に石巻中学校の体育館及び教室で行われた。震災から1年半を経てなかなか進まない復興状況の中で一步一步着実な歩みを感じた今回の訪問となった。

第8回になる講演会には石巻中学校の全生徒（333名）及び教職員そしてOBOGの方々が出席して講演者の話に聴き入った。

<基調講演：>

基調講演は18回生の宗教画家の渡辺総一氏である。「単純化と象徴化」を窮めて独特なキリスト教抽象画の世界を創り上げてきた。従来から活発な創作活動をしてきており数多くの個展も開催している。現在では国内はもとより世界の教会や大学で多くの絵画が展示されており各方面から高い評価を得ている。

以下にその講演概要をご紹介します。

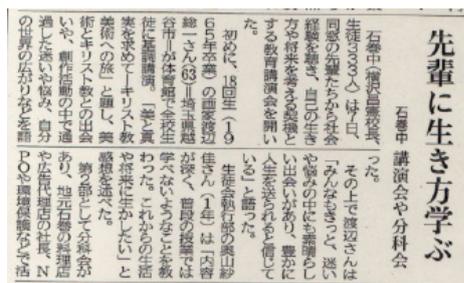
講演要旨：

中学時代から、自分にふさわしい仕事はなんだろうと捜すうちに、キリスト教と美術に出会いました。そうして、キリスト教美術の制作は自分の天職だと思い、絵画教室を開きながら、30年歩んできました。この道程は折々に出会った方々に支えられ、導かれてきたものです。皆さんにも素晴らしい出会いがあると信じています。

- ①悩みの中で— 自分の天職が見つかるまで、②美術とキリスト教との出会い、③聖書との出会い、④美術との再会とキリスト教美術へ、⑤単純化と世界へのひろがり、⑥自分を捨てるということ、⑦出会いの恵み

<第二部の「分科会」>

第二部は10名の講師の方々が教室に分かれて分科会が開かれた。様々な専門分野において人生観・教訓が披露された。生徒たちは個々に関心のあるテーマ（会場）を選び先輩の話を中心に聴いていた。



<講演会後に起こった地震の対応に感動>

教育講演会が無事終了して体育館・教室の後片付けを終えて校長先生と打ち合わせをしている中、17時18分に大きな揺れが起こった。けたたましく鳴る津波警報のサイレンと同時に周りの先生方に緊張が走った。テレビからは緊張し、大声で叫ぶアナウンサーの避難の呼びかけがあった。

校長先生、教頭先生、先生方の行動は速やかだった。

- ①在留生徒の点呼、安否確認。②先生方が校門を開放してグラウンドおよび体育館に避難者（車）を誘導。③体育館に暖房、等の避難所づくり。④生徒と家族との連絡。（そして避難解除）。⑤避難者・車・生徒の帰宅誘導。⑥体育館（避難場所）の整理・かたづけ。⑦教室の被害。安全確認。⑧先生方の集合・最終確認。⑨解散。

校庭から戻ってきた先生方は震えの止まらない身体ではあったがその安心感からでる微笑に感動を覚えた。一連の行動は先生方が持たれている石巻中学校として果たさなければならぬ使命感の表れた象徴的な出来事であった。

各分科会 講師と講演内容

分科会	講師名	講演内容
1	八幡家 代表取締役 ※老舗日本料理店 阿部 紀代子 氏	「食について」
2	ゼン・インターナショナル代表取締役 木村 美保子 氏	「旅の話 アジアの中の日本人」
3	東北プランニング 代表取締役 ※広告代理店 熊倉 一徳 氏	「広告という仕事について」
4	齋藤商店 代表取締役社長 ※産業廃棄物処理業 齋藤 祐司 氏	「再生エネルギーってなんだろう？」
5	石巻青年会議所 理事長 大丸 英則 氏	「まちづくりとひとづくりについて」
6	平孝商店 代表取締役 ※老舗造り酒屋 平井 孝浩 氏	「日本の文化 酒造りについて」
7	NPO 法人いしのまき環境ネット 理事 天津神大龍神宮宮司 齋藤 義樹 氏	「地域の環境保護活動について」 「神社の宮司の仕事について」
8	積水ハウス仙台シャーマンズ支店 石巻復興オフィス支店長 渡邊 信一郎 氏	「営業の仕事について」
9	NPO 法人 TEDIC 代表 早稲田大学大学院生 門間 優 氏	「大学生生活と NPO というお仕事」
10	NPO 法人ワーカースコープ 西新宿児童館館長 村上 俊 氏	「震災と NPO 活動」

＜生徒からの感謝のメッセージ＞

生徒たちからは今回の教育講演会に関するメッセージが寄せられた。「新鮮な驚き」「運命的な出会い」「多くの人への感謝」「きっかけは身近なところに」「自分を空っぽに」等の心に残る様々な感想が聞かれました。生徒の皆さんに少しでも将来を考える場となったものと感じられました。(感想文参照)

私は美術に種類があるとは思わなかったので、「キリスト教美術」という絵があると聞いたとき、びっくりしました。そして、「キリスト教美術協会」ということがあったことに驚きました。

実際に渡辺総一先生が描いたキリスト教美術の絵を見ると、「笑うようになる」や「泣く人と共に」という作品の人に目や口がついていないことに気付き、とても不思議に思いました。もう一つ気付いたのは、絵の表面が波のようにジグザグになっている作品があったことです。私は、最初「キリスト教美術」と聞いてピンときませんでしたが、このような作品を見て、キリスト教美術の特徴がよくわかりました。

私は、これから多くの方々との出会いの素晴らしさを感じながら成長していきたいと思いました。(1年 I. F)

私は、渡辺総一さんのお話を聞いて、キリスト教は奥が深いんだなぁと実感しました。キリスト教美術というものを初めて知りましたが、その絵の素晴らしさに驚きました。私は将来何をしたいのか、なりたいたいのかまだ曖昧ですが、渡辺先生が美術を続けながら、たまたま聖書に出会ったように、「きっかけ」は本当に身近なところにあるのだと思います。そしてその身近な出会いは、渡辺さんかもしれないし、学級の友達、これから出会う友達かもしれません。これまでの、そしてこれからの出会いに感謝しながら「渡辺さんの聖書」のようなきっかけを探して、生きていきたいと思いました。(1年 U. D)

仏教が主な日本人にとって、キリスト教はクリスマスなどの行事でしか、関わりがなく、あまり興味もなかったが、今回の講演を聞いて、「キリスト教美術」についてもっと知りたくなった。「自分を捨てて生きる」という言葉には驚いたが、その意味は深くとても難しいものだったが、説明を聞いているうちに納得することができた。「自己主張せず、自分らしく生きる」、また絵を描く上でも「先入観でデッサンするのではなく、自分を空っぽにする」ことは、今後の参考にしたいと思う。一番印象に残ったのは「多くの方に感謝する」です。私はまだ14年しか生きていないが、たくさんの人に支えられ、ここまでできた。「出会いを通して成長できること」これは大きいものだ改めて実感した。今回学んだ多くのことをこれからの学校生活に進路に生かしたいと思う。(2年 K. T)

私は、将来についてもう一度深く考えたいと思いました。自分にふさわしい仕事がいっぱい何なのかまだ見極めることはできませんが、自分にふさわしい仕事とは、自分で見つけることもできるし、なんらかの運命的な出会いもあると思います。今のうちからしっかりと考え、渡辺さんのように天職と思える仕事に就きたいと思いました。何かに出会うということは、自分の世界を広げたり、未知なものにふれたり多くのことを学ぶことができる大切なものだ、自分の中の教訓として、これからの出会いを大切にしたいと思います。渡辺さんは多くのことを聖書から見出していらっしゃったようなので、一度私も聖書なるものを読んでみたいになりました。(2年 N. Y)

キリスト教美術というものがあるということ、今日初めて知りました。渡辺さんは中学生のとき、将来について悩んでいましたが、大人になってから自分のやりたいことに出会い、約30年今のお仕事を続けているとおっしゃっていました。私も将来のことについて全然決めていなくて悩んでいます。しかし、渡辺さんのようにいろいろな人に出会い、考え、自分の将来について決めていきたいです。渡辺さんの絵は、抽象的でその絵の意味がよく伝わってくるものでした。「嵐の中で」というタイトルの絵は個人的に非常に気に入りました。最後に、渡辺さんが私たちにいらっしゃっていた言葉「出会いを通して成長してほしい」を心に留めて、今後生活していきたいです。(3年 Y. O)

私も今、将来の夢ややりたいことが明確に決まっておらず、迷子になっているので、今回のお話はとてもためになりました。今、将来の自分が視界に入っていないくとも、他にはたくさん選択肢があるのだと思うことができました。高校に入っても、中学でたくさんのお出合いがあったように、たくさんのよい思い出があればいいなと思いました。今までの素敵な出会いと、これから訪れる出会いを大切に、自分の本当にやりたいこと、向いていることを見極めながら、進んでいきたいです。今回のお話を聞くことができよかったです。ありがとうございました。(3年 M. H)



講師の方々お疲れ様でした



皆さん真剣に聞いてました



渡辺総一さんが描かれた絵画も体育館に展示されました

【電車・地下鉄でお越しのお客様】

- JR東京駅より秋葉原駅乗換で総武線両国駅東口より徒歩約6分
- 都営地下鉄大江戸線 両国駅 A1出口直結

【お車でお越しのお客様】

- 首都高速6号向島線向島IC 又は 首都高速7号小松川線錦糸町ICよりそれぞれ約15分
- R15 駐車場 (増設式126台/共田)

新たな東京石中会づくりを目指して 「ホームページを一新！」

<http://tokyosekichukai.com>

東京・石中会

TOP

石巻圏首都圏情報

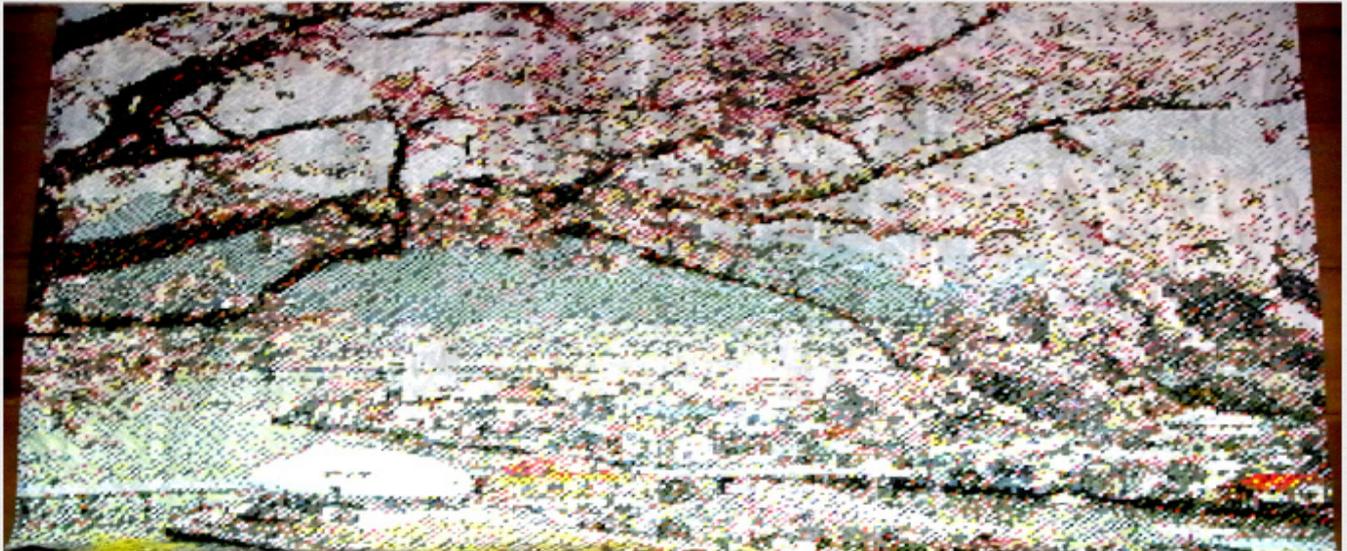
石巻OBOGの広場

石巻中学校情報

東京石中会情報

お知らせ

お問い合わせ



石巻中学校生徒全員による貼り絵「日和山から見た中瀬」

作成：加藤友成（18回生）

この5月からホームページが一新されました。震災から2年が経ち次第に記憶が薄らいできていることを感じておられる方が多くおられるのではないかと思います。われわれ東京石中会は10周年を記念して石巻圏と首都圏の交流を一段と活発にして「故郷とともに」復旧・復興そして未来に向けて少しでもお役に立てるように活動に貢献していきたいと考えその一環として「新ホームページ」の立ち上げをいたしました。TOPページには石巻中学校全生徒が共同で制作した「日和山から見た中瀬」の貼り絵を掲載いたしました。新ホームページの中で特徴的な2つの新コーナーを紹介いたします。



伊勢 秀一郎さん（24回生）



渡邊 公威さん（42回生）

- 「石巻圏・首都圏情報」コーナー このコーナーでは石巻圏・首都圏で活動されているさまざまなニュースを発信していきます。これらの情報を知っていただきその活動を共有していくことにより少しでも復興支援に繋がることを期待しております。① 石巻圏の復興活動状況（社会インフラ、水産業、商業、観光、等）を紹介 今回は「石巻元気復興センター」等の活動を紹介しております。② 石巻圏のイベント情報（お祭り、コンサート、等）を紹介 今回は「3.23の石巻萬画館のリニューアルオープン」を紹介しております。③ 首都圏のイベント情報（即売会、コンサート、展示会、等）を紹介 今回は「第3回かんがるーの会」等の活動を紹介しております。④ 首都圏の復興支援活動（プロジェクト活動、等）の情報を紹介 今回は「石巻復興プロジェクト」等の活動を紹介しております。
- 「OB・OGの広場」コーナー 石巻中学校のOB・OGをはじめとして石巻圏出身のOB・OGを紹介いたします。様々な分野で活躍しているOB・OGの紹介を通じて交流の活性化をしていきたいと考えております。今回は「テノール歌手・渡邊公威さん（42回生）」「トランペット奏者・伊勢秀一郎さん（24回生）」等の紹介をしております。石巻中学校のみならず石巻圏出身のOB・OGも紹介してまいります。自薦他薦で募集をしております。ご協力のほど宜しくお願いいたします。
- その他「石巻中学校」のコーナーでは石巻中学校が発行している「石中便り」を掲載することにいたしました。石巻中学校での様々な出来事が紹介されております。少しでも身近な話題として感じていただけることと思います。

今回の新HPを通して首都圏、そして全国の方々に少しでもふるさと石巻との交流を深めていければ幸いとと考えております。これからも東京石中会の活動の活性化に尽力してまいります。ご指導ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

第
10
回

東京・石中会の集い

6月16日（日）

開場 11:30

開宴 12:00

第一ホテル両国 東京都墨田区横網1-6-1

お申し込みは、はがき又は下記URLから承っております。

<http://tokyosekichukai.com/tsudoi-annai/>